

FM 補聴システムの効果的活用に影響する要因

○小林 優子

(上越教育大学臨床・健康教育学系)

永井 美帆

(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園)

田原 敬

(茨城大学教育学部)

KEY WORDS : 聴覚障害学生 情報保障 FM 補聴システム

【問題と目的】

大学や短期大学、高等専門学校などの高等教育機関に在籍する聴覚障害を有する学生（以下、聴覚障害学生）のうち、授業者の音声の聴取ができる者については、FM や Roger など補聴援助システムを使用することができ、大学での導入例も増えている。この方法を用いる利点として、視覚伝達手段である情報保障と異なり、専門知識を有する人材に頼らずに、授業者の音声情報を獲得することができるという点があるが、実際に利用している中で、効果的に活用されている場合とそうではない場合があると推測される。そこで本研究では、四年制大学や大学院（以下、大学）での授業において補聴援助システムのうち、FM 補聴システム（以下 FM）を利用している聴覚障害学生を対象に調査を行い、FM が効果的に活用するための要因について明らかにすることを目的とした。

【方法】

対象：X 年に大学の講義において FM を使用している聴覚障害学生 8 名（男性 4 名、女性 4 名）。

手続き：郵送法による質問紙調査をした。質問項目は、対象者の属性（学年、聴力レベル、主なコミュニケーション手段等）、FM が効果的に活用された授業、もしくは活用されなかった授業についての授業形式（講義、演習、実験、実習、実技）等であった。

分析の方法：選択肢による回答については単純集計をした。倫理的配慮：本研究は上越教育大学研究倫理審査委員会より承認を受けており、対象者から学会発表の同意を得ている。

【結果】

対象者の裸耳聴力は 90dB～100dB、補聴器装用時は 30dB～90dB であった。また、日常生活場面で主に用いるコミュニケーション方法は、音声や読話であり、FM を使用する学生は、普段から聴覚情報を活用していることが推測された。また、FM を使用している授業形式は、講義（語学以外）が 8 名中 7 名と最も多く、次に、講義（語学）と演習の 5 名であった。以下、この 3 種類の講義についての結果について述べる。

各授業形式において、FM を効果的に活用できていると思うか質問した結果、講義（語学）は 8 名中 2 名、講義（語学以外）と演習は 8 名中 5 名が活用できていると回答した。

また、授業形式ごとに FM が活用されている理由、もしくは活用されない理由について尋ねた結果を図 1、図 2 に示した。

活用されている理由として、「ゆっくり話す等、教員の話し方がわかりやすかったから」という理由が最も多く、以下「「ゆっくり話してほしい」等とお願いすると対応してもらえたから」「その先生が、自分の障害やその支援・配慮に関心を向けていたから」という回答が続いた。また、その他の理由として、「FM マイクの性能が素晴らしい」「男性の低い声をもともと聞き取りやすいから」などが挙げられた。

一方、活用されない理由としては、「話す速度が速かったり、声が小さいなど、先生の声が聞き取りにくかったから」が最も多く、以下「口形が見えないから」「その先生が、自分の障害やその支援・配慮に無関心だから」という理由が続

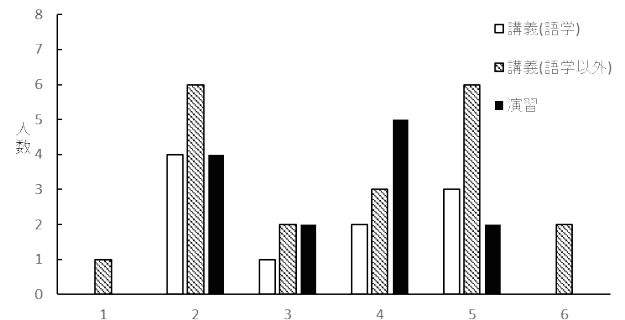
いた。その他の理由として、「演習では声が多く混ざる」「複数人の議論の時にすべての音を拾うのは難しい」「教室が広く FM マイクが有効に使えなかった」「（演習形式の授業で）学生の声が小さすぎて音を拾えなかった」「服が擦れる音が入ってしまう」などの理由が挙げられた。

【考察】

以上の結果より、FM を効果的に活用する要因の一つとして、教員の話速や口形を見せるようにすることなど、授業教員の話し方の影響と、その背景として聴覚障害への関心や配慮による影響が大きいと思われる。活用しにくい理由についても、教員の話し方に関する要因が多く挙げられており、授業担当教員への啓発の必要性が示唆された。

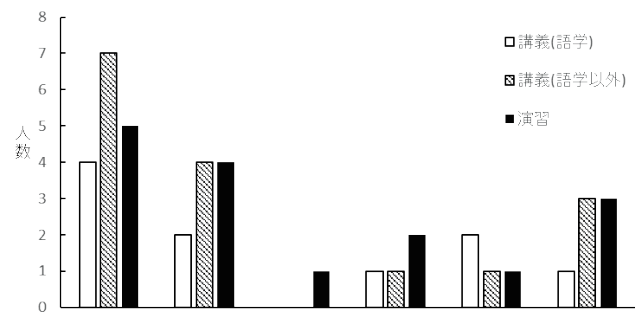
一方で、活用しにくい理由については、特に演習形式の授業において複数人の声を拾うことができないことも理由として挙げられており、Roger システムのように、複数の送信機の音を受信することによってこうした問題が解消されるのか、検証する必要があると思われる。

(KOBAYASHI Yuko, NAGAI Miho, TABARU Kei)



1. 聴覚障害に関する専門知識を持っていたから
2. ゆっくり話す等、教員の話し方が分かりやすかったから
3. 筆談など他の方法も併せて話したから
4. 「ゆっくり話してほしい」等とお願いすると対応してもらえたから
5. その先生が、自分の障害やその支援・配慮に関心を向けていたから
6. その他

図 1 FM が活用されやすい理由（複数回答）



1. 話す速度が速かったり、声が小さいなど、先生の声が聞き取りにくかったから
2. 口形が見えないから
3. 授業内容が専門的だから
4. 音声以外の情報(資料、板書など)と話す内容が対応していないから
5. その先生が、自分の障害やその支援・配慮に無関心だから
6. その他

図 2 FM が活用されにくい理由（複数回答）